

★ ネギ萎凋病が多発しています！！ ★

11月中旬から山城地域の露地ネギ栽培においてネギ萎凋病が多く発生しています。
今後、降雨が続くと発生ほ場ではさらに発病株が多くなると予想されますので、ほ場での発生に注意するとともに、発生を認めた場合には、早めに収穫を終わらましよう。

- 1 作物名 ネギ
- 2 病虫害名 ネギ萎凋病
- 3 発生地域 山城地域
- 4 発生量 平年比多い
- 5 発生状況

- (1) 山城地域の露地ネギ栽培において本病が多発している（写真1及び2）。
- (2) 西日本の一部の県において本病の多発が確認されている。

6 病徴

- 下葉がわん曲、黄化する。症状が激しくなると萎凋し、枯死する（写真3）。
- 地下部の葉鞘は茎盤部からアメ色に腐敗し、導管は褐変する（写真4）。根も腐敗する。
- 発病株は根が侵されることから引き抜くと容易に抜ける。

7 防除上の留意事項

- (1) ネギ萎凋病の生態
 - カビによる病害である。
 - 病原菌が主に孢子（写真3）の形で土壌中に残り、伝染源（土壌伝染）になる。また、種子伝染することもある。
 - 晩春から初秋に発生が多く、高温時に多発する。
 - 砂質土壌で発病しやすく、土壌pHが低いと発病しやすい。
- (2) 防除対策
 - 連作を避ける。
 - 排水不良地で発生が多くなるため、排水対策を行う。
 - 土壌pHを石灰などで6.5以上に保つ。
 - 発病株は速やかに抜き取り、ほ場外に適切に処分する。
 - は種または定植前に土壌消毒する。
 - 農薬の選択に当たっては普及センター、農協等と相談し、使用時期（収穫前日数）や使用回数等の使用基準を遵守して適正に使用する。なお、最新の農薬情報は農林水産省ホームページの「農薬コーナー」の「農薬情報」を参照のこと。

(<http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/index.html>)



写真1 ネギ萎凋病多発ほ場（全景）



写真2 ネギ萎凋病多発ほ場（畝）



写真3 萎凋した発病株



写真4 発病株の葉鞘断面



写真5 病原菌の孢子